



御堂筋STYLE創生

ビジネスストリートの未来を創る・発信する

2002.11.
御堂筋まちづくりネットワーク

御堂筋STYLE創生

～ビジネスストリートの未来を創る・発信する～

目次

1. プロローグ ー将来像の検討にあたってー
2. 歴史に学ぶ1 ー御堂筋周辺の都市構造と文化ー
3. 歴史に学ぶ2 ー御堂筋周辺の居住人口の変化と金融の集積ー
4. 御堂筋の周辺 ービジネスが創ってきたまちー
5. 御堂筋の現状1 ーまちなみを取り巻く環境ー
6. 御堂筋の現状2 ー活性化への課題ー
7. 御堂筋の新しい動き ー御堂筋のステータスを高めていくためにー
8. 御堂筋の目指すべき姿とは ー行政・財界等が考える御堂筋の将来像ー
9. ビジネス界、産業界のトレンド ートレンドを形成していく御堂筋を実現するためにー
10. 大阪ビジネス街の特性比較
11. 先進事例に学ぶ ー大都市都心部におけるまちづくり組織の先駆的取り組みー
12. 世界のメインストリートの事例 ー世界中から人々が集まるストリートの魅力ー
13. 御堂筋沿道企業の思い ー各社意見ー
14. 御堂筋の将来像
15. ○年後の御堂筋 ー将来の御堂筋のビジネスシーン・ライフシーンー

都市間競争が激化する時代にあつて、個性的で魅力あるまちづくりに向けて、地元の視点から、創意工夫して活性化のための活動を行うことがますます重要になってきました。私たちの企業活動の舞台である御堂筋を取り巻く環境も厳しく、地区のさらなる発展に向けて取り組むべき課題があると考えられます。言うまでもなく御堂筋を中心とする地区は大阪・関西の中核機能を担っており、中でも業務中枢ゾーンである淀屋橋～本町間はまさに大阪のビジネスの「顔」であり、その盛衰は国内外の企業や市民から注目されています。

こうした状況の中、地元が協調し、地元の視点から御堂筋の課題と改善策を検討し、行政、経済団体等とのパートナーシップを図りつつ、活性化に向けて行動するため、御堂筋沿道街区（土佐堀通り～中央大通り間）に不動産を所有する者等で構成する「御堂筋まちづくりネットワーク」が昨年12月に設立されました。

御堂筋は今、空室率の上昇、イメージの低下等といった問題が叫ばれています。当ネットワークにおいては、こうした、現在の御堂筋が抱える課題に対して、まちのプロモーション活動が必要という思いのもと、プロモーション部会を設ける等により、検討を行ってきました。しかし、こうしたプロモーションにあたって、現状の魅力を発信するだけでは、御堂筋の活力は回復しません。まちの現状や課題、魅力について認識した上で、新たな付加価値を加えた御堂筋の将来像を描いていく必要があります。

こうした考えのもと、当ネットワークにおいては、約1年にわたり検討会、部会、ワーキング等を重ねてきました。御堂筋の将来像検討にあたって、そのバックグラウンドとなる歴史や周辺状況、現状、ビジネス界のトレンド、そして沿道企業の思いなど、幅広く議論を重ね、その上で、今般、御堂筋沿道街区（土佐堀通り～中央大通り間）についての御堂筋の将来像「御堂筋STYLE創生 ～ビジネスストリートの未来を創る・発信する～」をとりまとめました。

前述のとおり、当ネットワークは御堂筋沿道の一部の者で構成されたものです。しかし、私たちが描いた御堂筋の将来像、すなわち、様々な活動が繰り上げられる御堂筋の「まち」として機能は、当然のことながら、御堂筋沿道のみならず、その周辺エリアとの関わりによって、生まれてくるものです。

まず、より多くの方々にこの将来像を知っていただき、多方面の方々から幅広く意見をいただくことが必要であると考えています。その上で、当ネットワークはこの将来像実現のための具体的なアクションを起こしていこうと考えています。この将来像が今後、御堂筋活性化の動きを加速させるツールとなることを期待しています。

平成14年11月 御堂筋まちづくりネットワーク

御堂筋まちづくりネットワークに関する情報はこちらのホームページでもご覧いただけます。

<http://www.midosuji.biz>

御堂筋 まちづくりネットワーク
Midosuji.biz

大阪のビジネスセンター【御堂筋】の
今がわかる情報サイト



御堂筋まちづくりネットワーク対象エリア
(H14年11月時点で会員企業は30社)

○東西の「通り」から南北の「筋」への都市構造の転換。
 ○その歴史的背景から現在でも東西の通り沿いに特徴的なまちが残されている。
 ○豊富な歴史資産。御堂筋周辺は歴史的に教育、文化の拠点であった。

都市構造

- ・近世の大坂では、東西の「通り」に沿ってまちが形成された。
- ・明治期、鉄道の発達による南北の拠点駅を結ぶ南北軸の必要性。
- ・大正期、幅員 44m の新しい御堂筋を計画。併せて地下鉄も建設。
- ・昭和 12 年に御堂筋が完成。以後大阪の大動脈かつビジネス拠点へ。



江戸期の大阪。水運が発達し、道路は東西の「通り」が中心であった。



建設中の御堂筋(1) ※国土交通省ホームページより



建設中の御堂筋(2) ※国土交通省ホームページより



現在の御堂筋。

秀吉による船場の開発

- ・大坂城に向かう東西の「通り」がメインストリート。
- ・南北の「筋」は、通りに対する横丁であり、幅員は狭く、まっすぐに通っていない箇所もあった

江戸時代の御堂筋

- ・通りの両側に、「金融の今橋」「菓の道修町」などの両側町が形成
- ・「筋」では、参勤交代が通り紀州街道へと続く堺筋が主な道路。
- ・河川や堀川を利用した水運に比べ、陸運は比較的不便なまち

明治期 ー都市構造の変化の兆しー

- ・大阪の中心の船場・島之内。その北部、南部の縁辺部に、大阪駅と難波駅ができ、東西が中心であった都市構造に、南北軸の必要性が高まってきた。

大正期

- ・大正 10 年、大規模な都市計画事業が打ち出され、御堂筋は地下鉄と併せて都市空間の立体的な利用を促進する交通網の要に。

昭和戦前期

- ・昭和 12 年 5 月、御堂筋完成。将来の自動車交通の発達を予測し、欧米に負けない近代都市をつくろうとした関一市長の決断により、幅員 44m(従前の約 7 倍)の道路が実現。

戦後～現在

- ・大阪の中心部を貫く幹線道路であり、その沿道に金融機関を中心にオフィスビルが建設され、大阪随一のビジネス街に発展。

	御堂筋周辺のできごと	大阪市内のできごと		
江戸以前	南御堂創建	1596年	石山御坊創建、寺内町の成立	1496年
	北御堂創建	1597年	秀吉大坂城築城開始	1583年
	秀吉の城下町整備	1598年		
	西横堀川の開削	1600年		
江戸期	住友創業	1624年	大坂夏の陣で秀吉の市街地は灰塵	1615年
	鴻池善右衛門両替商創業	1656年	～堂島米市場と金融市場が成立～	
	淀屋辰五郎所払い	1705年	～「天下の台所」流通、商業、金融の	
	懐徳堂開設	1724年	中枢機能が集中～	
明治期	稲荷文楽座(難波神社内)	1811年	大坂鎮台設置	1868年
	適塾開設	1838年		
	愛日小学校の前身が開校	明治5年	～商業、金融都市大阪は消滅～	
	伊藤忠兵衛が丸紅創業	明治5年	大阪神戸間鉄道開通	明治7年
大正期	心斎橋筋そごう開業	明治10年	大阪株式取引所開業	明治11年
	町立幼稚園開園(現愛珠幼稚園)	明治13年	関西最初の私鉄阪堺軌道(現南海電鉄)難波～大和川間開業	明治18年
	文楽座(御霊神社内)	明治17年	市制施行(東・西・南・北の4区)	明治22年
	帝国座開設	明治34年	～工業都市として再生。繊維業が中心産業～	
昭和戦前期			第1次市域拡張	明治30年
			内国勸業博覧開催	明治36年
			最初の市電開通	明治36年
			市電敷設に伴う堺筋の拡幅	明治45年
昭和戦後期			三越、白木屋、高島屋、松阪屋が堺筋に開業	大正6～12年
			大阪市区改正条例	大正7年
			第1次大阪都市計画事業(御堂筋ほか市内24路線の新設・拡張が決定)	大正10年
			旧大阪市庁舎竣工	大正10年
平成期			第2次市域拡張	大正14年
			～東洋のマンチェスター～	
			相愛女子専門学校設立	昭和3年
			御堂筋着工	昭和5年
戦後～現在			地下鉄御堂筋線(梅田～心斎橋)開通	昭和8年
			大阪ガスビル竣工	昭和8年
			三和銀行合同誕生	昭和8年
			御堂筋竣工	昭和12年
戦後～現在			船場建築線指定	昭和14年
			京阪電鉄淀屋橋延伸	昭和38年
			地下鉄中央線(弁天町～本町)開通	昭和39年
			長堀川埋め立て	昭和39年
戦後～現在			～御堂筋沿道の建設ラッシュ～	
			地下鉄中央線(本町～谷四)開通	昭和44年
			御堂筋南行き一方通行化	昭和45年
			中央大通り開通・船場センタービル開業	昭和45年
戦後～現在			御堂筋パレードスタート	昭和58年
			愛日小、集英小が統廃合	平成2年
			御堂筋彫刻ストリートスタート	平成4年
			御堂筋の高さ制限50mに緩和	平成7年
戦後～現在			新しい時代の御堂筋協議会設立	平成12年
			御堂筋まちづくりネットワーク設立	平成13年
			戦災復興計画着工	昭和21年
			政令指定都市	昭和31年
戦後～現在			国鉄環状線開通	昭和36年
			阪神高速環状線開通	昭和39年
			東海道新幹線開業	昭和39年
			人口315万人(戦後最高値)	昭和40年
戦後～現在			最後の市電廃止	昭和44年
			市内主要道路一方通行化	昭和45年
			大阪万博	昭和45年
			新市庁舎竣工	昭和61年
戦後～現在			東区・南区合区	平成元年
			花博	平成2年
			関西国際空港開港	平成6年
			阪神大震災	平成7年

※2001 都市環境デザインフォーラム関西資料、都市大阪創生研究会「Lion Avenue 生まれ変わる堺筋」資料より

文化

- ・淀屋橋、北浜周辺は大阪市内でも歴史資源の豊富なエリアであり、記念碑や建築物・構造物として残されている。
- ・その中でも「文化」に関する資源が多く、当該エリアが経済面だけでなく文化的にも拠点であったことがうかがえる。
- ・懐徳堂、適塾は当時の日本の教育・文化の一拠点。多くの人材を輩出。

懐徳堂

五同志と呼ばれる5人の商人が、享保9年(1724年)に開設した学問所であり、適塾と共に現在の大阪大学の前身。明治2年に廃止されるまで、多くの人材を育てている。



(懐徳堂記念会ホームページより)

懐徳堂は、そうした「天下の台所」大阪の経済活動を支えた商人たちが設立し、家業の傍ら自ら学んだ学校です。江戸時代には庶民教育が盛んになったとはいえ、商人たちが自主的に設立・運営した学校は全国でも異色の存在です。

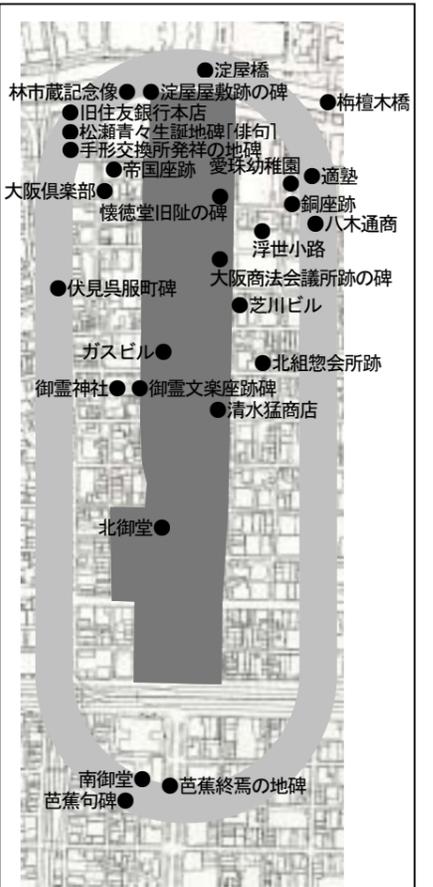
懐徳堂は享保9(1729)年、今を遡ること270年前に、五同志と呼ばれる五人の商人が、私財を投じて設立しました。講舎は淀屋橋から御堂筋を150メートルばかり南へ下った、今橋三丁目にありました。現代の今橋界隈は高層ビルが林立する大阪のビジネス=センターですが、江戸時代にあっても、ここは豪商が軒を連ねる商都大阪の中心地でした。その真ただ中に、懐徳堂という近世の日本でも指折りの学問所が建っていました。

…学生たちも謝金を納めましたが、貧しければ紙一折れ・筆一対でも構わないとされていました。また、家業を優先させて中途の退席を認めるなど、町人が学びやすいよう配慮されていました。門下生のなかには武士もいましたが、懐徳堂の学則には、「諸生の交わりは、貴賤貧富の別なく、同輩たるべきこと」と記されています。身分の上下の区別が激しい時代にあっても、学問の場における平等を認める開かれた校風であったことが判ります。

道頓堀や淀屋橋の例をあげるまでもなく、大阪の町造りには、多くの町人の手がかかっています。二百近くあった大阪の橋のうち九割以上は、建設・維持ともに町人が費用を負担しました。懐徳堂の設立も、このような町人たちによる社会資本整備の一環といえます。懐徳堂は、武士や公家ではなく、町人が都市の担い手であった大阪の特色をよく反映した学校でした。

適塾

緒方洪庵の旧宅であり、多くの人材を輩出した蘭学塾であり、現在の大阪大学の前身。天保9年(1843年)に開設され、出身者に、福沢諭吉、大村益次郎、佐野常民などがある。重要文化財。



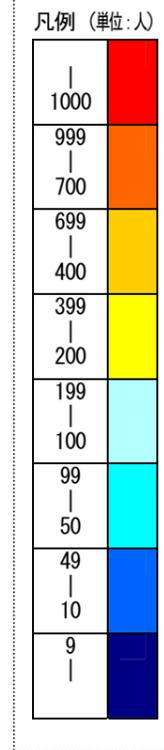
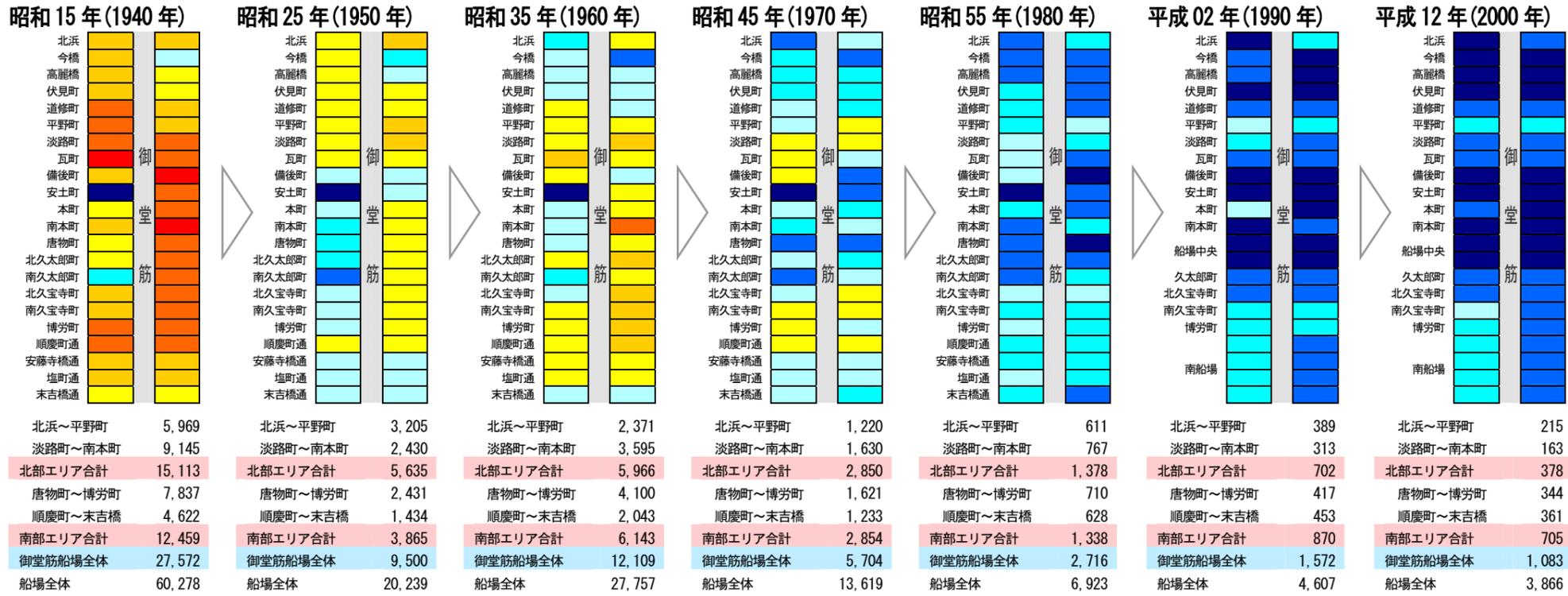
御堂筋周辺の歴史資産

歴史に学ぶ2 御堂筋周辺の居住人口の変化と金融の集積

○御堂筋周辺の人口減少が顕著である。特に淀屋橋から本町間（当ネットワークの会員エリア内）の人口減少が著しい。
○御堂筋沿道は戦前の小区画の間屋街から、戦後の大規模ビルの金融業の集積へと移り変わってきた。

居住人口の変化 ※横堀筋～三休橋筋間の人口データをもとに作成。町名変更前の昭和55年以前については、現在の町の面積等により按分計算のうえ算出。

金融の集積 ※御堂筋沿道街区のみ着色。赤着色は金融業（銀行、生損保）の本支店等ビル



昭和38年(1963年)



昭和61年(1986年)



戦前(昭和10~15年頃)の御堂筋



出展：(株)都市問題経営研究所作成資料(2001年5月)

考察

○御堂筋周辺の居住人口の変化

- ・ **御堂筋周辺の人口減少が顕著**：船場エリア全体で、戦前には約6万人であった人口が現在約4千人にまで減少(△94%)している。その中でも御堂筋周辺(西横堀川～三休橋筋)の減少が著しく、戦前の約2万8千人が現在約1千人となっている(△96%)。船場エリアの中で、戦前から昭和45年頃までは御堂筋周辺で4～5割の居住人口を抱えていたが、現在は3割弱となっている。
- ・ **特に北部の人口減少が大きい**：御堂筋周辺の北部と南部を比較すると、昭和55年頃まではほぼ同数であったが、その後北部の人口減少が加速し、現在の北部の人口は南部の約半分である。
- ・ **今橋から伏見町、備後町から船場中央には居住は皆無**：これらのゾーンには昭和45年頃までは相当数の人口があったが、現在は数名程度であり、戦前の1%程度である。
- ・ **南久宝寺以南と平野町には居住あり**：南久宝寺以南と平野町には100人前後の人口があり、それらのゾーンで全体の7割を占める。

○御堂筋沿道の土地利用の変遷

- ・ **戦前は小規模区画の間屋街**：戦前の御堂筋沿道は間屋街として栄えていた。土地の区画は小さく、全国的に有名な商店が軒を連ね賑わっていた。(左地図：戦前の御堂筋参照。中央を南北に貫いているのが御堂筋。御堂筋西側中央の大きな区画は北御堂と相愛高等女学校。)
- ・ **戦後のビル建設ラッシュと金融業の集積**：昭和30年代～40年代にかけて御堂筋沿道ビルの建設ラッシュ。戦後の活発な経済活動をビジネスセンターとして支えてきたのが御堂筋。(右上図：昭和38年時点において既に金融業の集積が見られる。)
- ・ **昭和60年代、金融業の集積はピークに**：昭和60年代、金融業の集積はピークを迎える。(右下図：昭和61年時点。沿道の大部分のビルに金融業の本支店等がある。)

○この地区のビジネスは、業種的にも、歴史的にも多様であり、パッチワーク的である。
○建物ストックから見ると、それぞれの筋、通りごとに規模、性格の違った建物があり、御堂筋周辺地区全体として、様々なスペースを提供できる要素を備えている。

歴史的ビジネス街

船場は、ビジネスについて江戸時代からの歴史的な流れを持つまちである。近代にはいと、金融や薬品、繊維の業界が発展し、それらの企業が北船場ビジネス街をリードした。そして、新しく造られた大動脈「御堂筋」は、東西の通りで構成された町を分断し、金融の街を南北に形成した。

■魚の棚筋周辺 (通称：住友村)

三井住友銀行をはじめとして、住友系の建物が建ち並んでいる。建替えにあたって、セットバックして高木を植樹することを進めており、その結果並木道が形成されている。御堂筋の並木とは違った落ち着いた雰囲気を持っている。

また、この辺りが歴史的なビジネスの中心地であることの象徴とも言える「大阪俱樂部」が魚の棚筋に面してある。



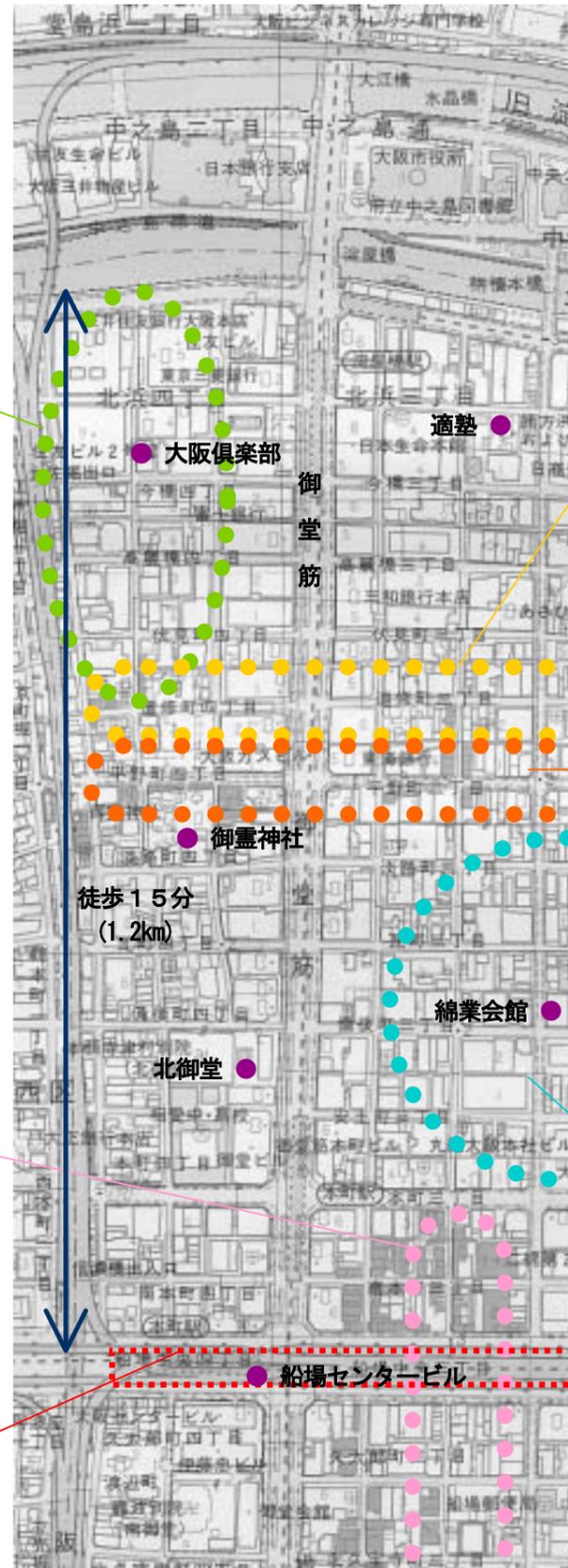
■井池筋

南船場を中心に繊維の卸売り問屋が建ちならんでいる。一般の買い物客も混じり、心齋橋筋とともに賑わっている。



■船場センタービル

中央通りの拡幅の際、この辺りの繊維の卸売り問屋の移転先として建設した。東横堀から西横堀まで続く、長大な建物である。



■道修町 (薬の町)

江戸時代に薬の町として計画的につくられ、現在でもその趣を残している。武田薬品、塩野義、大日本製薬等の大手企業が建ち並んでいる。御堂筋に面しては武田薬品がビルを構えている。



道修町のまちなみ→

■平野町 (商店街)

かつて、雑貨や食料品を売る店や飲食店が並び、北船場の商店街としてにぎわっていた。夜店をおこなっていた時期もある。今も、小ぶりの1階店舗が建ち並び、街灯などにも往時の面影を読み取れる。

また、最近、御霊神社近くや三休橋筋近くでは、リニューアルされ、トレンドなお店が出現している。



平野町の新しいレストラン→

■紡績の町

淡路町、備後町、安土町の2・3丁目には、紡績業関係企業のビルが集積している。“繊維の町・船場”のひとつの顔である。

その中心的な場所に、紡績業ビジネスのメッカであることを象徴的にあらわしている「綿業会館」がある。



綿業会館→
備後町のまちなみ↓

■敷地の形状

1. 通りと筋の表情

東西の道に面した両側町として計画された船場のまちは、御堂筋と堺筋に面する街区を除いて、通常、東西の道を正面玄関として奥深い建物が建てられている。その中で、南北道路の「筋」に面した宅地は、さらに細分化されている例もおおく、奥行きのない小規模な建物が並んでいる。



御堂筋→



通り (備後町) →



筋 (道修町付近) →

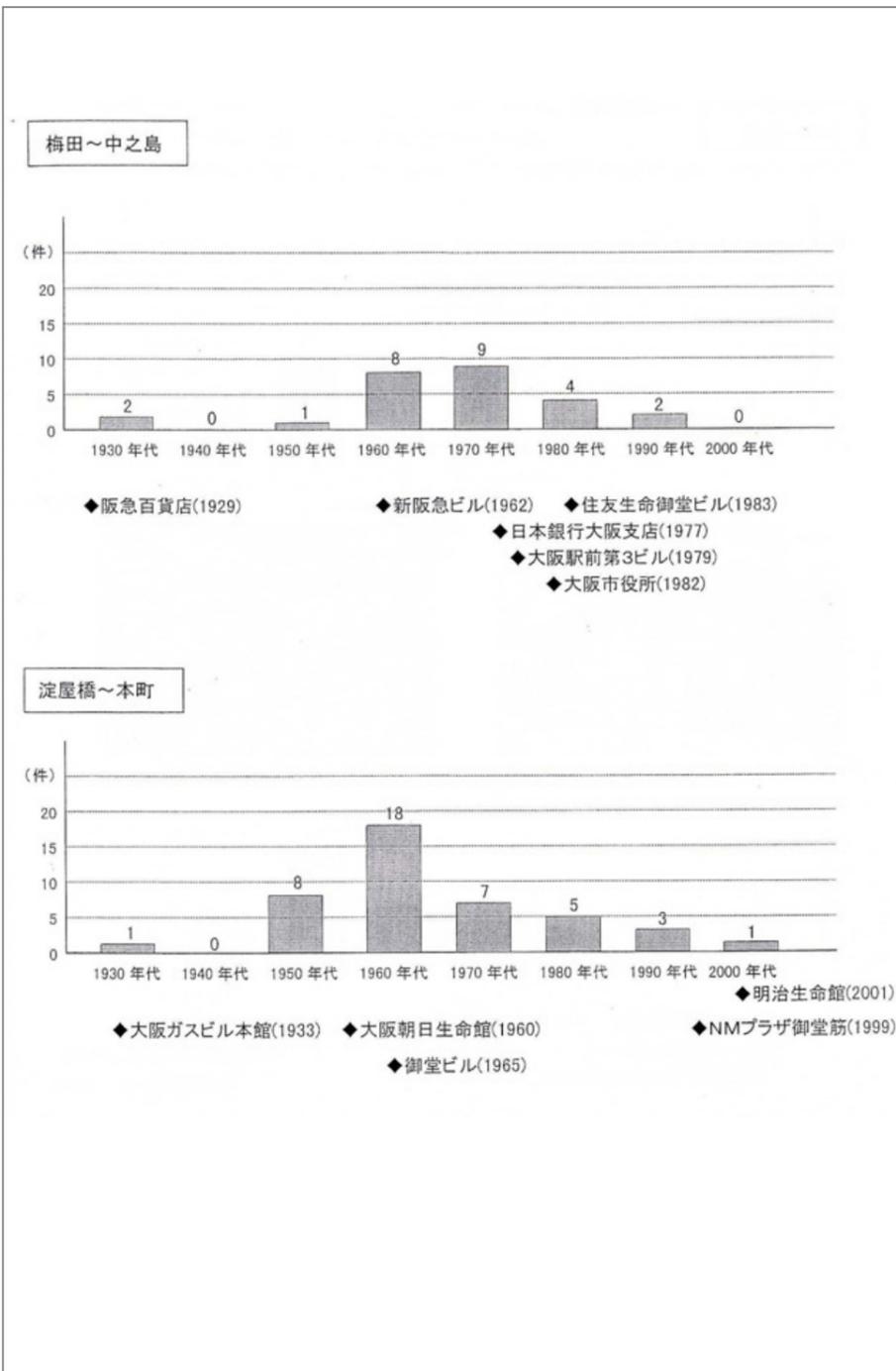
2. 敷地の規模

御堂筋に面する街区に建てられた建物は船場の中では比較的大規模である。それに比較して面しない街区の建物は小規模である。これらにより、地域全体で多様なスペースが提供できると考えられる。

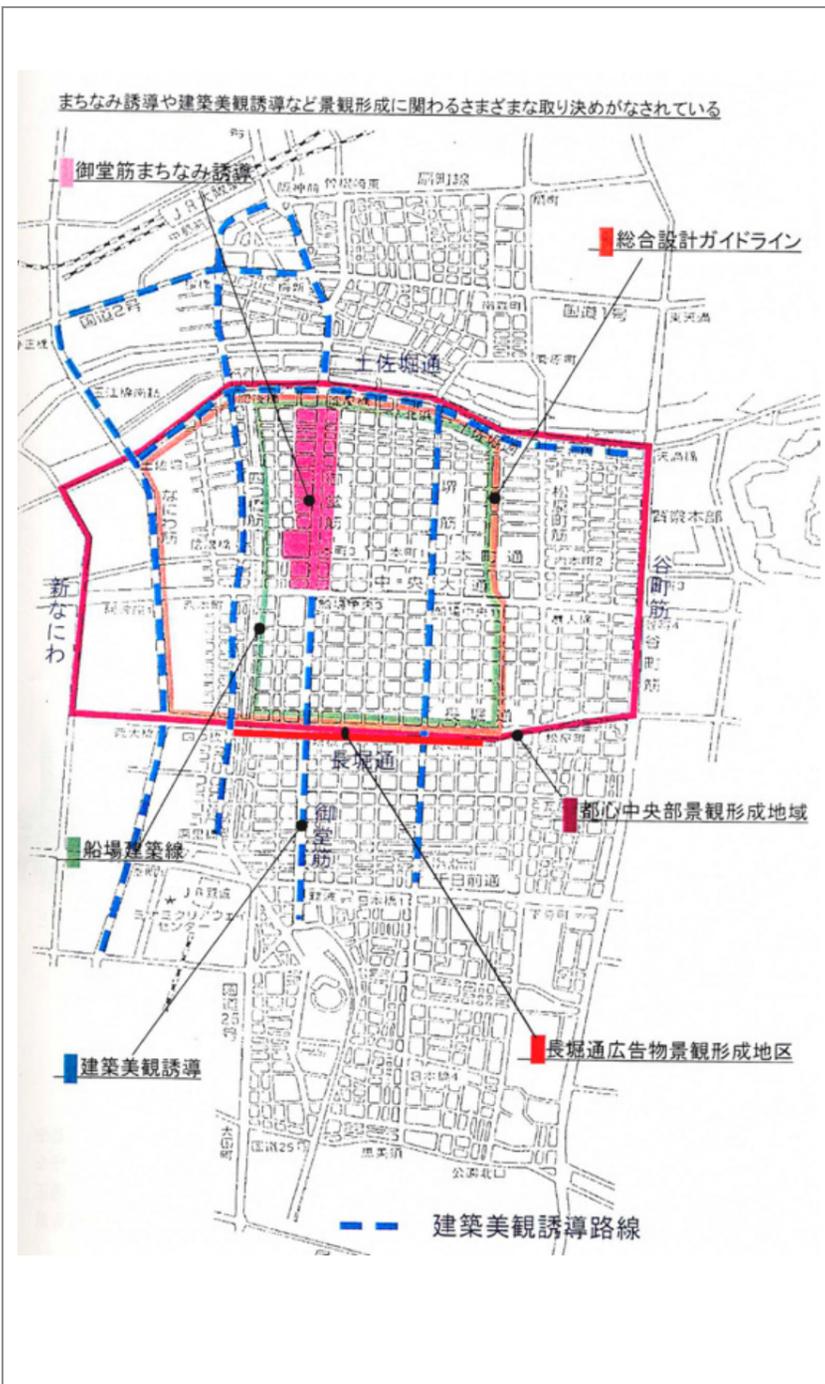


○建築のピークは、淀屋橋～本町間では1960年代。
 ○御堂筋まちなみ誘導や、建築美観誘導などのさまざまな取り決めがなされている。
 ○地価賃料とも、下落が続いており、東京都心部に比べてもその傾向が顕著である。

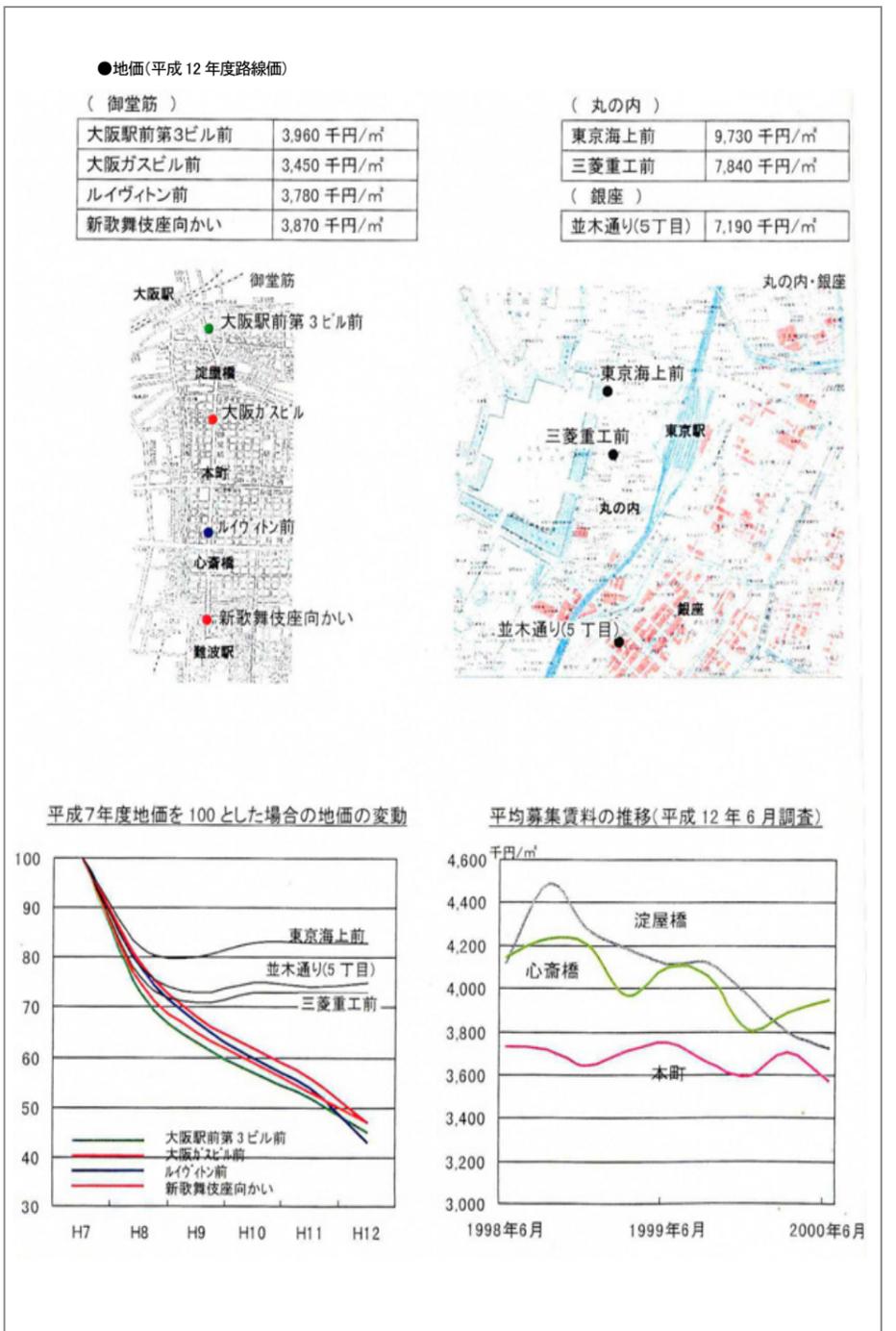
1. 建築時期



2. 法規制状況



3. 地価・賃料



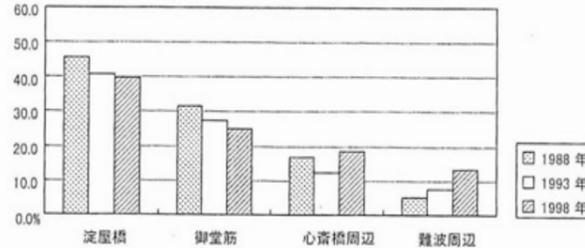
注 資料出典は、『「新しい時代の御堂筋」に関する活性化方策検討調査 報告書(平成13年3月)』

○大阪のビジネス中心地としてのイメージは低下している。
 ○側道の自動車交通量は大きく減少している。休日の歩行者交通量は、平日に比べ大幅に少ない。
 ○御堂筋パレード他、多くのイベントがあるが近年は規模の縮小、数の減少傾向にある。

4. ビジネスゾーンのイメージ

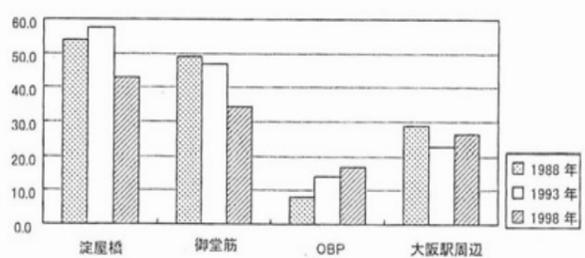
■ 働いてみたいビジネスゾーン

- ・淀屋橋・御堂筋本町は人気が高いが、下降傾向にある。
- ・一方、心斎橋から難波にかけての人气が上昇している。



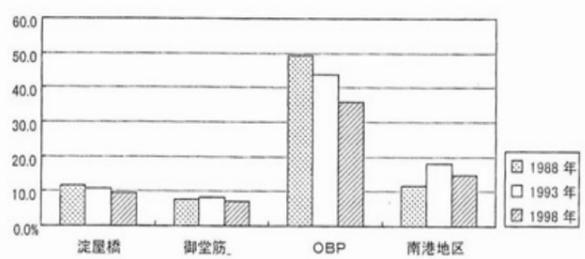
■ 現在のビジネスの中心地イメージ

- ・大きく支持率を下げているとはいえ、現在のビジネスの中心地は淀屋橋、御堂筋本町。
- ・心斎橋、難波にはビジネスゾーンというイメージはあまりないようである。



■ 将来のビジネスの中心地イメージ

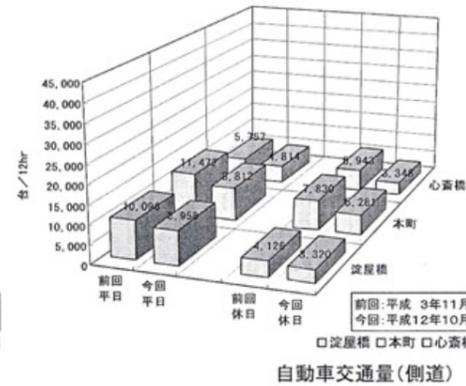
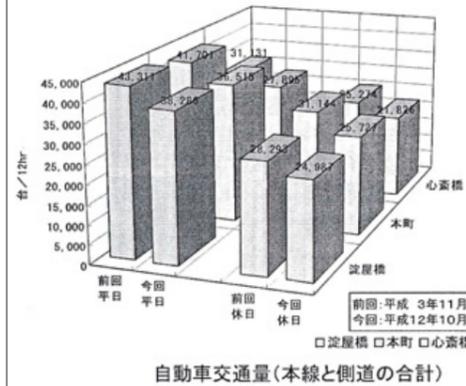
- ・OBPの人气が高いが下降傾向にある。南港などの臨海部も上位に入っている。
- ・淀屋橋、御堂筋本町は従来から将来性イメージが弱い。



5. 交通量 (賑わい)

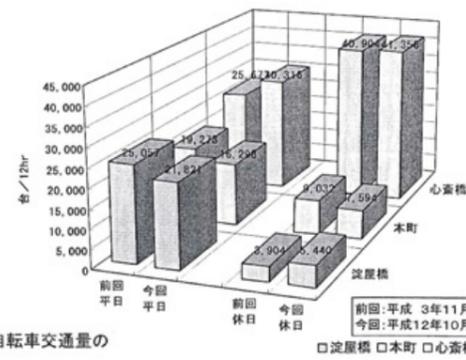
自動車交通量

- ・自動車交通量は、本線及び側道を合わせた12時間交通量(平日)28,000~38,000台程度。前回調査時(平成3年)より約1割減少している。
- ・自動車交通は、平日・休日の変動が非常に大きく、休日は平日に比べ6,000~13,000台程度少ない。
- ・側道の交通量は、平成3年と比べ大きく減少しており、特に、淀屋橋及び心斎橋付近はほぼ半減している。



歩行者交通量

- ・休日の歩行者交通量は、本町で平日の約半分、淀屋橋では約2割と極めて少ない。
- ・逆に、休日の心斎橋以南の歩行者交通量は、平日の約3割増しと極めて多い。前回調査時と比べても約1割の増加が見られる。



資料 : 車道本線、緩速車線、駐車量、歩行者、自転車交通量の12時間実測調査
 実施期間 : 平成12年10月
 原データ : 近畿地建

6. イベント

		(平成12年度)
冬	1月	●大阪国際女子マラソン
	2月	
春	3月	
	4月	●旗の掲揚(4月中) ●大阪はなまつり ●ランチタイムコンサート(4月中毎週金曜日):中之島公園 ●中之島祭り:中之島公園
	5月	
夏	6月	
	7月	●水室祭:難波神社
	8月	●北御堂盆踊り・南御堂盆踊り:北御堂・南御堂
秋	9月	●御堂筋ギャラリー(9月下旬~10月上旬) ●御堂筋パレード ●旗の掲揚(10月中) ●ランチタイムコンサート(10月中毎週金曜日) ●都市緑化月間(銀なんおとし)(10月中) ●芭蕉忌(10月中旬)
	10月	
	11月	●神農祭:少彦名神社
冬	12月	●イチョウのイルミネーション(12月中)

注 資料出典は、『「新しい時代の御堂筋」に関する活性化方策検討調査 報告書(平成13年3月)』

御堂筋の新しい動き - 御堂筋のステータスを高めていくために -

○金融業界再編、金融システム変化に伴い、沿道建物1階利用形態は金融系から変化しつつある。
 ○御堂筋沿道の高いステータスと地価下落という要因が新たな店舗・企業の進出を後押ししている。
 ○にぎわいを創出していくためにはオンタイム・オフタイム両面で考えていく必要がある。

沿道建物1階利用形態の変遷から

○沿道建物1階利用は金融系から商業系へ

- ・平成元年はほとんど金融系の店舗利用だったが、平成14年には飲食・物販などの商業系店舗が多くなってきており、中央大通までの南半分で特にその傾向が顕著である。(現在の沿道建物1階利用形態から)
- ・商業系店舗利用の中でもカフェ系の店舗利用が特に多くなっている。
- ・欧州系の高級輸入家具を取り扱うアルフレックスなど新たなオフタイム系店舗の進出も始めている。
- ・一方で旧来より本店・支店を構え続けている老舗的金融系企業も数多く存在している。

○低未利用地

- ・空店舗・空地・駐車場などのいわゆる低未利用地も数は少ないが、存在している。

○新たな動き

- ・先日コンピューターソフト会社のオービックが長谷工コーポレーション旧本社ビルの敷地を取得したことや同じくコンピューターソフト関連会社のアクセスも新本社ビルを建設中であることなど、IT業務系のオフィス利用が新たに発生してきている。

変遷の要因として考えられる社会的背景

○金融業界の再編に伴う店舗統廃合

- ・メガバンクに代表されるような金融業界の再編に伴い、1階店舗の利用も統廃合が進んでいる。

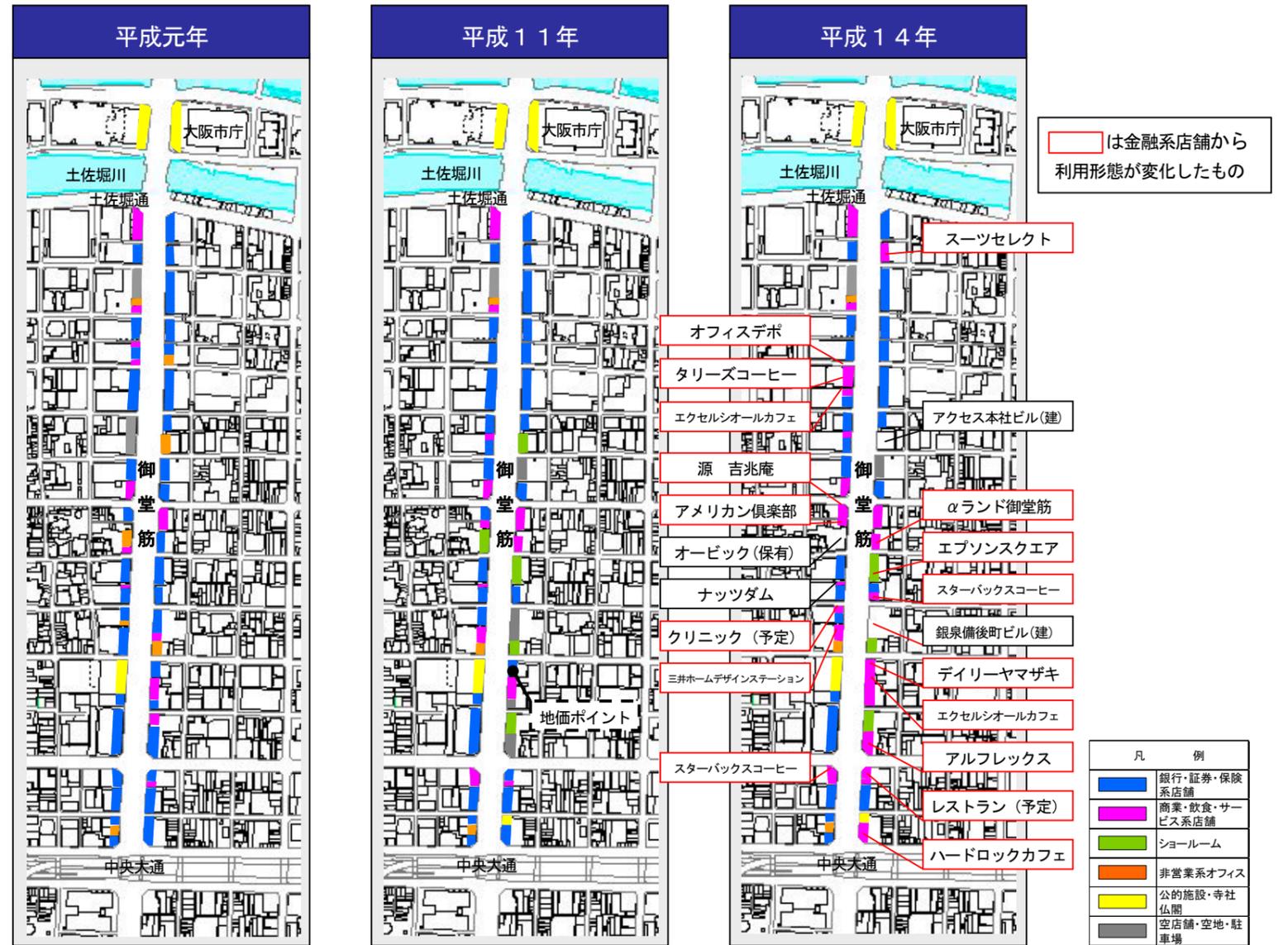
○金融流通システムの変化

- ・コンビニ ATM やインターネット銀行など IT の発達による金融流通システムの進化が進んでおり、経営効率化という点で金融機関の1階店舗利用における必然性が薄まってきている。

○地価下落に伴う土地取得機会の増大

- ・平成9年に比べ地価は半分近くまで下落しており、御堂筋沿いの土地を取得する機会は増大している。
(参考) 国土庁による地価公示

所在	地籍形状(m)	利用区分構造	上段:地価の動向(千円/m ²)					下段:前年比	
			平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	
中央区備後町3-6-2	1,327	敷地SRC 10F2B	7,000	6,250	5,630	4,550	4,000	3,820	
	1:1.5不整形		—	-10.7%	-9.9%	-19.2%	-12.1%	-4.5%	



変遷から読み取る御堂筋の現状

○御堂筋におけるステータス

- ・「御堂筋=大阪のメインストリート」というステータスの高さは依然として企業にとって魅力的であり、それが沿道建物1階利用形態の変化を促しているといえる。

○オンタイムに強い御堂筋

- ・ビジネスにおけるオンタイム、つまり平日でも集客を狙える営業形態に特化したカフェ系店舗が多いことから、オンタイム系商業施設にとって周囲にオフィスが多いということがビジネスチャンスになっているといえる。
- ・反面、休日やアフターファイヴなど、オフタイムに集客を狙う店舗は極端に少ないことから、休日に人通りが少ないことと御堂筋に集客施設があまり存在しないことが相乗効果を及ぼしているといえる。

御堂筋の魅力を高めていくために

○新たなステータスの創出

- ・かつての沿道建物1階の構成から金融の街と呼ばれていた頃から、内容は変化してきており、変化の中でも培われていくステータスが必要である。

○オンタイムにもオフタイムにもにぎわう御堂筋

- ・オンタイム系店舗の進出は今後もさかんになっていく可能性があるが、その中で街として、通りとしてどのように御堂筋のアイデンティティを形成していくかが鍵である。
- ・にぎわいをもたらす上で期待されるオフタイム系店舗が増えていくためにも、どのような仕掛けが必要なのか御堂筋という街として取組んでいく必要がある。

御堂筋の目指すべき姿とは ー行政・財界等が考える御堂筋の将来像ー

- 御堂筋は関西のシンボルであり、現在の雰囲気、ステータスを維持・発展させるべきである。
- 特に淀屋橋～本町地区はビジネスゾーンとして風格あるまちであり続けて欲しい。
- 御堂筋で人々が楽しめるにぎわい施設づくりなど、「人」を重視したまちづくりが必要である。

行政・財界等の意見の整理

	提言者・〈提言名等〉	御堂筋全体の整備テーマ	淀屋橋～本町地区 整備テーマ	他地区 整備テーマ
官民協働	「新しい時代の御堂筋」協議会 平成13年	国際集客都市・大阪のシンボルとして、新しいビジネス発信の場とするとともに、歴史と文化が薫り、うるおい・にぎわい・ゆとりのある世界に誇れる風格あるメインストリートとする	風格と活力のあるビジネス空間	(梅田～淀屋橋) うるおい・ゆとりのあるアメニティ空間 (本町～心斎橋) 風格と活力のあるビジネス空間 (心斎橋～難波) にぎわいのあるアミューズメント空間
行政	建設省大阪国道工事事務所 《「御堂筋景観調査委員会報告書」》 昭和62年	気品と格調のあるシンボル性の高いプロムナードの創成	気品と格調そして活気のあるオフィス街区空間の創成	(梅田～淀屋橋) 豊かな緑と水辺空間の創成 (南船場地区) 明るく機能的で落ち着いた空間の創成 (心斎橋・道頓堀) 活力ある出会いふれあいの楽しめる空間の創成 (難波地区) 新旧調和のとれた文化性の高い空間の創成
	建設省近畿地方建設局 《御堂筋ルネッサンス構想》 平成3～5年度	大阪の、そして関西のシンボルとしての21世紀へ向けて創造すべき道、御堂筋	歴史と風格のビジネスゾーン	(梅田～淀屋橋) 緑と水辺のゲートゾーン (本町～心斎橋) 歴史とセンスのファッションゾーン (心斎橋～道頓堀) 遊びと賑わいのアミューズメントゾーン (道頓堀～難波) 遊びと集いのターミナルゾーン
	大阪市 (御堂筋まちなみ検討委員会) 《御堂筋まちなみ整備の今後のあり方について》 平成6年	21世紀に向けて、国際都市大阪のシンボルストリートにふさわしい、うるおい・にぎわい・ゆとりのある魅力あるまちなみづくり	賑わい施設を導入し、活気と賑わいのある街を目指す。 銀杏並木と風格を活かしながらより水準の高いまちなみを形成する	(梅田～淀屋橋) 都心部にゆとり・うるおいを与える。まちなみの形態面での美しさの向上をはかる。 (本町～心斎橋) 賑わい施設を導入し、活気と賑わいのある街を目指す。壁面の位置の統一などまちなみの美しさの向上を図る。 (心斎橋～難波) 都心部にゆとり・うるおいを与える。まちなみの形態面での美しさの向上をはかる
	大阪市 《「文化集客アクションプラン」》平成14年	御堂筋沿道の企業等によるタマシゲメント組織の活動を支援し、1階にカフェやブティック等集客力の高い施設を誘致するプロモーション活動を促進する。		
	大阪市 《都市再生緊急整備地域「大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域」の整備目標》 平成14年	大阪都市圏の中心部に位置する大阪都心地域において、既存の都市基盤の蓄積を生かしつつ、風格ある国際的な中枢都市機能集積地の形成を目指す。 御堂筋周辺においては老朽化した建築物の更新等による業務・商業等の機能を高度化した集積地を形成。	大阪のメインストリートにふさわしい風格あるまちなみの形成を図るため、御堂筋に面した建築物については、壁面の位置などまちなみの連続性に配慮した都市開発事業を促進。特に淀屋橋から本町については御堂筋に面した外壁の位置や高さを整えるなど、まちなみに配慮した都市開発事業を促進。	
経済団体	大阪商工会議所 《御堂筋活性化に関する提案》 平成4年	御堂筋を美しく、楽しく、気品あふれる人間中心の道へ	風格のシンボルストリート	(大阪駅～梅新東) ときめきのキタゲート(梅新東～淀屋橋)芳醇のウォーターフロント (本町～心斎橋) 商いの文化情報ストリート(長堀～道頓堀) 躍動のクリエイティブストリート(道頓堀～難波) 活力のミナゲート
	関西経済連合会 《大都市都心部の活性化に向けて》 平成12年	・御堂筋及びその周辺を賑わいと活気のある地区とし、競争力の高いビジネス環境と働く人や訪れる人にとって魅力的な空間を創造する。 ・御堂筋は大阪の中心でポテンシャルがあり、タマシゲメントによる効果が他地域に比べて短期間に大きく現れると思われる。	不動産オーナーを中心とした組織を作り、同地区を目指すイメージに近づける。(現在の御堂筋まちづくりネットワーク)	
	関西経済同友会 《「御堂筋及び周辺の活性化に関する提言」》 平成13年	・世界から人と投資を呼び込み、世界の諸都市と競争していく舞台装置として、機能・風景の多様性を持ち、魅力的な人との出会いが可能な街となる必要がある。 ・御堂筋を楽しみ、愛する「御堂筋市民」の育成が必要。		
その他の機関	関西21世紀戦略会議御堂筋小委員会(日本経済新聞社) 平成12年	・IT産業とソフト・サービス産業を集積し、24時間稼働する都市居住型のモデル地区とする。 ・側道を遊歩道にする等、人間優先の「道」にする。 ・地元住民や企業が投資するタマシゲメント手法(御堂筋方式)の開発		
	都市基盤整備公団 《御堂筋界限整備構想検討調査》 平成12年	21世紀の御堂筋は『ビジネスエリア』から『市民の出会いと表現の舞台』へとしての発展	「新たな文化・学術の拠点」	(梅田～中之島エリア)「大阪の街へのプロローグ」 (本町～長堀エリア)「“本物”“こだわり”の集積」 (心斎橋～難波)「多様な賑わいの凝縮」

○世の中のトレンドは多種多様かつ絶えず変化し続けるものであり、有効にトレンドを取り入れていく必要がある。
○トレンドの後追いをするのではなく、逆にトレンドを形成していくようなしかけ作りも重要である。

御堂筋を取り巻くビジネス界のトレンド		御堂筋を取り巻く産業界のトレンド	
金融業界	キーワード：金融ビッグバン、メガバンク、異業種の金融参入、インターネット銀行 ■金融業界内での再編、異業種の参入など金融業界での企業間競争が激しくなっている。 ■金融の営業形態は従来のFace to Face型からITを活用した営業形態へと変化している。	新産業	キーワード：エコビジネス、ゲノムビジネス、不良債権ビジネス、産学協同、生活支援サービス ■「エコ」「バイオ」をキーワードに日本の産業成長を促進させる産学協同の動きがさかんになっている。 ■いかに早くニッチ市場で主導権を握るかという点において企業の競争はさかんになっている。
企業経営	キーワード：ベンチャーキャピタル、エンジェル、SOHO、コーポレート・アントレプレナーシップ ■SOHOや社内ベンチャーなど個人の起業精神を生かした企業経営スタイルがさかんになっている。 ■そうした起業を金融面、施設提供などで支援する組織、個人も増えてきている。	IT産業	キーワード：ブロードバンド、ホットスポット、ユビキタス、Eラーニング、ウェアラブルPC ■ブロードバンドの汎用性向上に向けて通信関連企業各社での競争、技術開発がさかんになっている。 ■個人の生活に密着したIT産業の進歩が目覚しくなっており、ニュービジネスにおいても重要視されている。
労働経済	キーワード：雇用調整、失業率増加、ワークシェアリング、労働時間の減少、パートタイム店長 ■失業率の増加が深刻化する一方、就業形態が効率的に見直されてきており、ワークシェアの発想も出てきている。 ■労働時間は短縮の傾向があり、個人における可処分時間は増加してきている。	環境産業	キーワード：省エネルギー、クリーンエネルギー自動車、サマータイム、オンサイト電源 ■CO2削減に向けた燃料電池の開発など環境ビジネスへの企業の取り組みがさかんになっている。 ■人々のライフスタイルにもスマートライフの考え方が生まれつつあり、こうした産業を後押ししている。
環境経済	キーワード：地球温暖化、炭素税/炭素基金、自動車交通公害対策、リサイクル、環境会計 ■環境問題に対する企業の意識が向上してきており、ビジネスにおいても重要な要素となってきた。 ■地元NPOによる取り組みなど社会における問題意識も高まりをみせている。	流通産業	キーワード：コンセプトショップ、エコショップ、地域通貨、コンビニ銀行 ■IT化が高度に進んできており、日常生活におけるFace to Faceの機会が減少してきている。 ■小売店舗においては単に商品を売るだけでなく、店としての独自性を発揮することが重要となってきた。
証券市場	キーワード：直接金融、REIT(リート)、ベンチャーキャピタル・ファンド、SPC法 ■ペイオフ、銀行預金の超低金利などを背景に個人資産の運用形態も間接金融から直接金融へとシフトしつつある。 ■SPC、REITなど不動産流動化を推し進める仕組みにより、証券市場に不動産が活用されつつある。	都市開発	キーワード：プロジェクトファイナンス、PFI、SPC、LCM、SI住宅 ■開発プロジェクトの事業スキームにおいて、資金運用、活用方法が重要視されてきている。 ■スクラップアンドビルドからリノベーションへと開発の考え方自体が変化してきている。

御堂筋におけるトレンドの影響
◆金融再編に伴う店舗統廃合による空き店舗の増加
◆営業形態の変化による1階窓口を必要としない銀行店舗の発生
◆時価主義会計導入による保有不動産の含み損発生
◆IT系企業の進出
◆ホットスポットの登場、ITS予備実験の開始（長堀21世紀計画の会）

御堂筋にトレンドを取り入れるとしたら...
◆御堂筋ベンチャーキャピタルの設立やSOHO支援施設などによる、起業を促進し、ニュービジネスを創出するまちづくり
◆IT系企業やバイオ関連企業の誘致による雇用機会を創出し、労働市場を活性化させるまちづくり
◆沿道建物の屋上緑化やクリーンエネルギーの導入による環境に配慮したまちづくり
◆ホットスポットなどIT技術を活用した歩行者と店舗、歩行者と道路空間との情報ネットワーク形成
◆定期借地方式とSPCを活用した遊休地の積極的な利用や御堂筋REITの発行による土地保有リスクの軽減
◆魅力的なコンセプトショップ群の形成による回遊空間の創出

大阪ビジネス街の特性比較

2002.11 御堂筋まちづくりネットワーク

10

○御堂筋地区は、メインストリートとしてのイメージのよさと、集積度や交通利便性などの企業営業活動上の利便性が優れている。
○他に比べ開発規模が小さく、新規大規模ビルやホテル等のアメニティ施設が乏しい。

	御堂筋地区 (淀屋橋・本町)	梅田地区		中之島地区	OBP地区
		西梅田地区	ダイヤモンド地区		
総括	御堂筋の知名度は高く、オフィスセンターとしてのイメージも確立している。また、集積度、交通利便性、まちのわかり易さ等から見て、企業営業活動上の利便性が優れている。一方、ホテル等のアメニティ施設は不足している。また、開発規模が他と比べ小規模。	全ての機能が集まっており、利便性は高い。大型オフィスビルには、外資系や情報産業系を中心とした企業が入居している。	梅田ターミナルの中心であり、利便性が極めてよい。多機能のまちであり、オフィスセンターとしてのイメージは乏しい。企業の顔が見え難く、ビジネスの情報発信基地としては難しいエリアである。	国際会議場、ロイヤルホテル、フェスティバルホール等、個別には知名度が高い施設が多い。また、それぞれにインパクトもあり知名度も高い大型オフィス開発が数軒進められている。一方東西に長いこの地域は、街としての連続性に乏しい。	緑に囲まれた超高層ビル群という新しいビジネス地区のイメージをつくりあげた。ホテル、テレビ局、劇場等があり、テレビ、新聞等でなにかと目に触れる機会も多い。一方、地下鉄が開通したものの、営業上の利便性はやや劣っている。
募集賃料(円/坪) 注1	12,260・10,710 (地区全体で沿道ビルに限らない)	13,000 (梅田地域全体)		14,210 (堂島も含む)	16,970
空室率 (%) 注1	7.0・11.1 (地区全体で沿道ビルに限らない)	5.4 (梅田地域全体)		4.6 (堂島も含む)	8.8
事務所・営業所数 注2 (500m四方内の数字)	1,544	—	439	406	219 (350/OBP 協議会資料より)
同従業者数(人) 注2 (500m四方内の数字)	36,401	—	17,535	14,303	18,752 (2.5万人/OBP 協議会資料より)
店舗・飲食店数 注2 (500m四方内の数字)	287	—	1314	109	152 (100/OBP 協議会資料より)
公示地価 (万円/㎡)	382 (備後町3-6-2)	499 (角田町12番1外)		66 (中之島3-5-11・科学館近く)	—
開発経緯	1950後半から70年頃にかけて今のまちなみが形成された。	鉄道敷跡の開発。99年～2000年にかけて、7棟がたち上がり、まちの骨格ができた。	61年から20数年かけて市が駅前第1～4のビルを建設。その後、ヒルトンH、第一Hやディアモール地下街等が整備されている。	淀屋橋、肥後橋周辺は建替えが進行している。また、西部地区には大規模な開発用地がある。	区画整理した更地に、新しいコンセプトのビジネスセンターを建設。86年にツイン21が竣工し、その後次々と12棟が建設された。
開発規模(㎡) (敷地面積)	御堂筋沿道は、千㎡～5,000㎡程度	3,000㎡～10,000㎡	数千㎡～10,000㎡	数千～数万㎡	7,000㎡～47,000㎡
主なオフィス	(自社)日生本館、ガスビル (テナントビル)日土地、他	(自社)毎日新聞社、大和ハウス (テナントビル)ハービス、ダイヤビル	(区分所有ビル)駅前再開発ビル第1～4	(自社)朝日新聞、関電 (テナントビル)三井ビル、三井物産	(自社)住友生命、富士通、読売放送 (テナントビル)ツイン21、ダイヤモンドタワー
開発物件	銀泉備後町ビル(03年/3.1万㎡) アクセスビル(03年/1.2万㎡)	阪神西梅田Ⅱ期(04年/11万㎡) 第2吉本ビル(04年/4万㎡)	ダイヤモンドタワー(02年.12月/5万㎡)	新関電本社ビル(04年/11万㎡) 住友生命新ビル(05年/7万㎡)	—
イメージ 注3	一流企業が多い 大阪のビジネスの中心地 利便性がいい	— (回答数が少なく、調査時点では認知度が低いと思われる。調査は98年。)	利便性が高い 商業機能が充実 働いてみたい	— (回答数が少なく、調査時点では認知度が低いと思われる。調査は98年。)	緑や水の豊かなアメニティ 大阪の未来のビジネスの中心地 働いてみたい
交通利便性 注4	御堂筋線淀屋橋駅(112,669人/日) 御堂筋線本町駅(86,082人/日) 他、京阪淀屋橋駅、中央線本町駅 ※地下鉄網の中心	阪神梅田駅(97,597人/日) 四ツ橋線西梅田駅(64,675人/日) 他梅田ターミナル(JR、阪急、阪神)	JR大阪駅(425,461人/日) 御堂筋線梅田駅(226,674人/日) 他梅田ターミナル(JR、阪急、阪神)	京阪淀屋橋駅(79,734人/日) 四ツ橋線肥後橋駅(36,719人/日)	鶴見緑地線OBP駅(4,573人/日) JR京橋駅(145,039人/日) 京阪京橋駅(103,709人/日) ※京橋は郊外交通と市内のターミナル
主要な施設 (オフィス以外)	北御堂、適塾	ホテル(3)、専門学校、病院	ホテル(2)	市役所、ホテル、フェスティバルホール 国際会議場、住友病院	ホテル、四季の劇場
主要な商業施設	ミズノ本店	ハービスプラザ	阪神百貨、ヒルトンプラザ、E-マ、ディアモール	—(特になし)	IMPプラザ
オープンスペース	御堂筋の並木道、彫刻			川沿いのプロムナード	緑、水、大阪城公園
備考	御堂筋まちなみ誘導の規制 御堂筋パレード、大阪国際女子マラソン わかりやすい格子状の街	地下道で連結された街	地下道で連結された街 市大大学院が開設(03年4月)	中之島新線計画あり。 対岸に阪大病院跡地。	

注1 生駒データより(2002.6)(調査主体の地域分けに従い、標記の地区を含むデータを抽出。地区だけを限定したデータではなく、それより広い範囲を含む。)

注2 大阪市メッシュデータ・平成8年事業所・企業統計調査より(近似するメッシュ500m×500mの数値を記載。地区だけを限定したのものではなく、同じ面積を切り取った場合の集積度の比較と意味で掲載。)

注3 なにわ考現学99より(98年実施されたOL、サラリーマンへのアンケート調査)

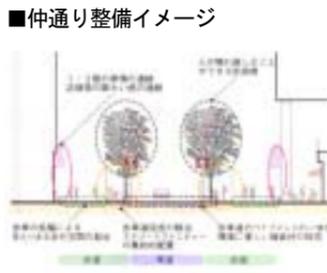
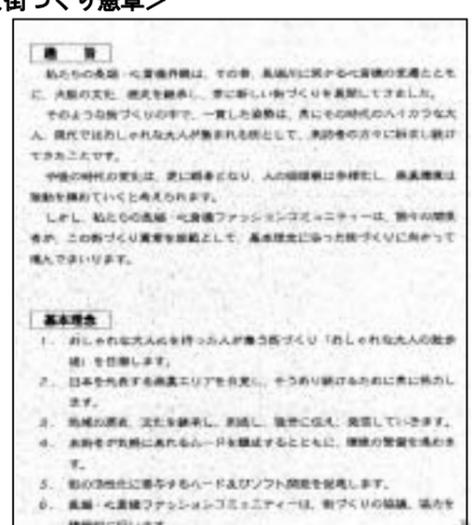
注4 大阪市統計書平成13年度版より(乗車客数)

先進事例に学ぶ 一大都市都心部におけるまちづくり組織の先駆的取り組み一

2002.11 御堂筋まちづくりネットワーク

11

○大手町・丸の内・有楽町地区再開発協議会では、再開発推進に向けた検討活動を行ながら官民合意で「まちづくりガイドライン」を策定、実際の再開発プロジェクトの動きにつながっている。
○長堀21世紀計画の会では、継続的な提言・要望活動を通じ地元の意向を街づくりに反映、街の活性化に向けたいくつかの具体的な取り組みに着手している。

名称	大手町・丸の内・有楽町地区再開発協議会	長堀21世紀計画の会
設立日	1988年7月20日	1982年2月27日
会の目的	適正な都心機能のあり方の検討を行い、地区として一体的なまちづくりを進める。	長堀・心齋橋エリアの集客力アップと活性化、市民の生活文化の向上を図る。
対象区域	東京都（区部）都市再開発方針における「東京駅周辺再開発誘導地区」（再開発促進地区を含まず） 面積：約111ha（内宅地約60ha）、建物延床面積：約519ha、建物棟数：約101棟	長堀通りを中心とした、東西を堺筋・四ツ橋、南北を周防町通り、南久宝寺通りで囲まれた範囲。
会員資格	対象区域内の地権者。	対象区域に立地する企業・商店を主体に、会の趣旨に賛同する有志。
会員数	90者（2001.5現在） 会員並びにオブザーバー：86者（全地権者の約9割） 特別会員：4者（千代田区、東京消防庁丸の内消防署、新生銀行、(財)東京国際交流財団）	160者（2001.11現在） 企業152社、個人8名
会の構成	総会、理事会、幹事会、検討会で構成（会長会社：三菱地所、副会長会社：東京電力・東京三菱銀行・日本電信電話）。 現在、ガイドライン検討会、街づくり検討会、PR・情報化検討会を設置し、テーマごとに検討、研究活動を行う。	総会、三役会、室・部会で構成。現在、長堀・心齋橋開発室、財務室、美化緑化室、親睦活動室の4室を設置。具体案件の立案・計画・実行を行うため、各室に部会を設置。
活動経緯	<p>テーマごとに検討を行う検討会を設けると共に、外部機関に調査を委託し、学識経験者など専門家の意見を踏まえながら検討活動を行っている。</p> <p>1993年5月 調査委託先の「街づくり検討委員会」が再開発計画を提案。 1994年3月 上記を受け、地権者が目指す街づくりの方向性を確認し合った「街づくり基本協定」を会員全者により締結。 1996年9月 協議会、東京都、千代田区、JR東日本にて「まちづくり懇談会」を組成、望ましい将来像について意見交換。 1998年2月 懇談会での検討をとりまとめた「ゆるやかなガイドライン」を発表、将来像のキャッチフレーズを「ABLE CITY」（A=Amenity 快適、B=Business ビジネス、L=Life 生活・活力、E=Environment 環境）とし、多様な機能を持ったまちづくりを進めることを目標に設定。 1998年5月 ガイドラインの内容を一般に周知すべくシンポジウムを開催。 2000年3月 懇談会の成果として、「ゆるやかなガイドライン」をより具体化した「まちづくりガイドライン」を官民合意で策定、同11月シンポジウム開催。 2000年8月 「まちづくりガイドライン」のルールを都市計画に位置づけるため、千代田区が丸の内一・二丁目地区を対象とする「丸の内地区・地区計画」を都市計画決定、告示。</p>	<p>実効的な提言・要望を繰り返し行い、地元の意向をまちづくりに反映させた活動を行っている。また、長堀通りの清掃、イベント開催、異業種交流などの地域活動も行っている。</p> <p>1983年4月 長堀のまちづくりビジョン「NAGAHORI-MALL21」を提案。長堀通りの地下に地下鉄、自動車道、駐車場、地下街、地上に公園、野外音楽堂、噴水、ポケットパークを配した整備案を作成。 1984年1月 「長堀通り大改造」案を提案。 1985年2月 長期ビジョンを示した「長堀イベントプラザ構想」を提案。 1991年1月 地下鉄開通に伴う長堀通り再開発案「長堀大通公園計画案」を提案。 1994年7月 行政案を踏まえたアイデアを盛り込み「長堀大通改造整備計画案」を提案。 1997年12月 長堀21他4団体による協議会「長堀・心齋橋ファッションコミュニティ」を結成。 1998年 長堀通り整備完成。 1999年11月 「ショーウィンドー・コンテスト」開催。以後、毎年開催。 2000年3月 「長堀・心齋橋ファッションコミュニティ」として「長堀・心齋橋地区広域活性化計画」を提案。「おしゃれな大人の散歩まち」のコンセプトの元に、「街づくり憲章」を制定。 2001年 長堀通りの歩行者空間「長堀パーク・アベニュー・プロジェクト」を提案。 2001年12月 NPO法人化。 2002年4月 街づくりビジョン部会を設置。5つのエリアに分け、エリアごとに街づくりビジョンを検討。</p>
活動成果例（ガイドライン等）	<p><まちづくりガイドライン></p> <ol style="list-style-type: none"> ① ガイドラインの位置づけ…ガイドラインの目的、必要性、基本的理念 ② 地区の将来像…8つの目標（ビジネス、賑わい、風格と活力、等）、特色あるまちづくり、都市機能に対する考え方）、アーバンデザイン、公的空間整備、整備方針図（ゾーン、軸、拠点） ③ まちづくりのルール…「街並み形成型」、「公開空地ネットワーク型」 ④ まちづくりの手法…4つの整備手法「街並み形成型」「公開空地ネットワーク型」「容積移転型」「用途入れ替え型」、都市開発諸制度の活用、再開発地区計画 ⑤ 推進方策…公民協力・協調、懇談会によるまちづくりの推進 <p>■ 4つの整備手法イメージ</p>  <p>■ 仲通り整備イメージ</p> 	<p><街づくり憲章></p>  <p><長堀・心齋橋地区広域活性化計画></p> <p>■ 活性化のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 長堀・心齋橋界隈を自然呼称で呼ばれるようにする 長堀・心齋橋界隈を全国に、世界に知ってもらい、売り込む 長堀・心齋橋界隈の歴史・文化資源の活用を考える 長堀・心齋橋界隈へ活性化のための触媒機能の導入 ⑤ 活性化のために周辺企業、市民、行政のパートナーシップ体制を目指す <p><長堀パーク・アベニュー・プロジェクト></p> 

※ 協議会資料、計画の会資料より編集

世界のメインストリートの事例 -世界中から人々が集まるストリートの魅力-

○沿道に魅力的な商業施設が集積、ショッピング・ストリートとして数多くの人々を引き付けている。
○沿道あるいは周辺に多くの歴史・文化的ストックと豊かな自然を擁し、訪れる人々にショッピング以外の楽しみも提供することによって、ストリートのアメニティを高めている。

名称	五番街 (ニューヨーク)	シャンゼリゼ通り (パリ)	ウンター・デン・リンデン (ベルリン)	リージェント通り (ロンドン)	丸の内仲通り (東京)
概要	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ独立戦争後、1811年のランデル計画により幅30.5m南北12本のアヴェニューと幅18.3m東西155本のストリートが誕生 五番街はマンハッタンを南北に貫く背骨で、商業やオフィス、文化施設等が林立、高級ショッピングやビジネス街として有名なのは、42丁目から59丁目までの1.5km 沿道に多くの文化ストックと豊かな自然を擁する、ニューヨーク有数の観光名所 	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀のナポレオン3世帝政下に行われた、オースマンのパリ大改造により整備 凱旋門からコンコルド広場に至る全長1.9km、途中のロータリーを挟み凱旋門側の商業地区とコンコルド広場側の緑地帯に二分 商業地区は幅員77mで、11の車線とプラタナスの並木のある幅の広い歩道がある 沿道にはカフェ、レストラン、ショップ、オフィスなどが並ぶパリの観光名所の一つ 	<ul style="list-style-type: none"> 17世紀にプロイセン選帝侯が造った、ドイツ帝国時代からの目抜き通りで、沿道には歴史博物館、国立図書館、フンボルト大学、国立オペラ劇場などの歴史的建造物が集まる ブランデンブルク門からマルクス・エンゲルス広場までの1.4km 幅員60mで街路中央部と両側の歩道には名前の由来となった菩提樹(リンデン)の並木道が続く 	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀前半の都市計画家ジョン・ナッシュにより計画、通り名は建設を命じたリージェント皇太子(後のジョージ4世)に由来 ウォータールー・プレイスからピカデリー・サーカス、オックスフォード・サーカスを経由してモルティマー通りに至る全長1.4km ロンドンの商業中心地としてブランドショップなど様々な店舗が集積、周辺に多くの歴史・文化的ストックと豊かな自然を擁し、世界中から人々を引き付けている 	<ul style="list-style-type: none"> 明治期に三菱が政府から土地の払い下げを受け、以降経済地区として整備が進められた 高度成長期以降、報道機関や金融機関の本社が立地し、東京のビジネス中心地として発展 永代通りから日比谷の晴海通りに至る全長1.2km、幅員21mの通りで、両側に幅6mの歩道とユリノリの並木、11体の彫刻がある 1998年頃からビル1階にブランドショップが集積、ブランド・ストリート化した
ランドマーク	<ul style="list-style-type: none"> トランプタワー(商業・オフィス・住宅)、ロックフェラーセンター(GEビルを中心に21のビルが林立)、エンパイアステートビル 	<ul style="list-style-type: none"> 凱旋門 	<ul style="list-style-type: none"> ブランデンブルク門 	<ul style="list-style-type: none"> ピカデリー・サーカスのエロス像 	<ul style="list-style-type: none"> 丸の内ビルディング
文化施設	<ul style="list-style-type: none"> メトロポリタン美術館、近代美術館、グッゲンハイム美術館、ニューヨーク市立博物館、ニューヨーク市立図書館、など多数 	<ul style="list-style-type: none"> グラン・パレ、ブティ・パレ 周辺にルーブル美術館、オルセー美術館、など 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史博物館、国立図書館 周辺のシュプレー川中州の博物館島にペルガモン博物館など4つの博物館が立地 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺にロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ、ナショナル・ギャラリーなどが立地 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺に出光美術館、東京国際フォーラムが立地、その他、周辺にギャラリー、画廊、博物館等が多数あり
シアター・映画館	<ul style="list-style-type: none"> ラジオシティ・ミュージックホール、パリスシアター、など 1ブロック先にブロードウェイシアター街 	<ul style="list-style-type: none"> マリニー劇場、ロン・ボワン劇場、UGCシャンゼリゼ、ゴーモン・アンバサード 	<ul style="list-style-type: none"> 国立オペラ劇場 	<ul style="list-style-type: none"> ピカデリー・サーカス周辺にセガ・ワールド、ロンドン・パビリオンが立地 周辺には劇場などが多数立地 	<ul style="list-style-type: none"> 沿道に帝国劇場が立地 周辺に有楽町マリオン、日比谷シャンテが立地
商業施設	<ul style="list-style-type: none"> デパート：パーニーズ・ニューヨーク、パードゴルフ・グッドマン、ヘンリー・ベンデル、サックス・フィフス・アベニュー、ロード&テイラー、など ブランドショップ：多数立地 レストラン：沿道よりも周辺に点在 	<ul style="list-style-type: none"> デパート：沿道にはないが、周辺にプランタン、ギャラリー・ラファイエットなどが立地 沿道にはスーパー(プリズニック)がある ブランドショップ：沿道より周辺に多数立地 レストラン：沿道に多数立地 キャバレー(リド)、ディスコ(クイーン)などのナイトスポットが立地 	<ul style="list-style-type: none"> 沿道にはカフェやレストランが出店、オープンカフェが目立つ(カフェ・アインシュタイン、オーパンカフェ、など) 	<ul style="list-style-type: none"> デパート：リパティ、三越、ピカデリー・サーカス周辺にそごうロンドン、など ブランドショップ：沿道に多数立地 専門店：タワーレコードなど多数立地 レストラン：沿道に多数立地 クラブなどのナイトスポット 	<ul style="list-style-type: none"> 沿道にはブランドショップ、レストラン、カフェが多数立地 丸の内ビルディングに物販店、レストランが集積
ホテル	<ul style="list-style-type: none"> プラザ、ピエール、ペニンシュラなど多数 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺にウェルネ、ワーウィック・シャンゼリゼなど多数立地 	<ul style="list-style-type: none"> アドロン、ウンター・デン・リンデン 周辺にウェスティン・グランドなど 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺にランガム・ヒルトン、リージェント・パレス、ル・メリディアン・ピカデリーなど 	<ul style="list-style-type: none"> 沿道にペニンシュラが進出予定(2007年) 周辺にフォーシーズンズ、帝国、パレスなど
その他施設	<ul style="list-style-type: none"> セントパトリック教会、セントトーマス教会、など 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺にノートルダム大聖堂、マドレーヌ教会、パリ第4大学、など 	<ul style="list-style-type: none"> フンボルト大学、ノイエヴァッフェ、ベルリン大聖堂、など 	<ul style="list-style-type: none"> ポリテクニク大学、周辺にBBC放送局、セント・ジェームズ教会、など 	
オープンスペース	<ul style="list-style-type: none"> セントラルパーク、セントラルパーク動物園、マジソンスクエア、ワシントンスクエア 	<ul style="list-style-type: none"> チェイルリー公園、コンコルド広場 	<ul style="list-style-type: none"> ブランデンブルク門西側にティアーガルテンと呼ばれる幅1km、長さ3kmの公園が立地 	<ul style="list-style-type: none"> ピカデリー・サーカス、オックスフォード・サーカスなど 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺に皇居が立地
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> 近くを走る地下鉄が24時間運行 バスが網の目のような路線網で運行 	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄がシャンゼリゼ通りの地下を走る バスが網の目のような路線網で運行 	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄(Uバーン)が通りの地下を走る 国鉄(Sバーン)も通りの一部の地下を走る 	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄がリージェント通りの地下を走る バスが網の目のような路線網で運行 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の地下鉄路線が周辺を走る JR東京駅が近くに立地
備考	<ul style="list-style-type: none"> 周辺のアヴェニュー、ストリートにも様々な施設が多数立地 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の観光名所としてパサージュ(ショッピング・アーケード)、マルシェ(市場)など 	<ul style="list-style-type: none"> 交差するフリードリッヒ通りは、デパートやアーケードがある新興ショッピング・エリア 	<ul style="list-style-type: none"> リージェント通りの西側に一流ブランドが軒を連ねるボンド通りがある 	<ul style="list-style-type: none"> 1999年以降、年末に約350mに及ぶ光のアーケードのイベント「東京ミレナリオ」開催
写真					

<p>A社</p>	<p>「企業が立地したくなるまち」 「働いて楽しいまち・ビジネス上の利便性が高いまち」 「訪れたいまち」 「学生、若者も参加できるまち」 「活発な情報発信が行われているまち」 「多くの活動ネットワークがあるまち」 御堂筋に関わるあらゆる人（立地する企業、ワーカー、訪れる人）の御堂筋に対する満足度を向上させる。（課題としては、周辺との役割分担や「オール大阪」の視点でその活力と風格を考えること。） 企業にとって望ましい将来像 ・多くの人が居る ・多くの企業集積がある ・多くの人が訪れる ・様々な活動が活発に行われている ・夜間、休日にも賑わいがある ・ステイタスがある</p>	<p>E社</p>	<p>「多様性を持った街、質の高い人が集まる街」 ・居住機能については、まちとして必要という議論も社内ではある。 ・まちとしているんな機能を持たせるべき。 ・そうした色んな機能が混在しつつ、特徴、魅力あるまち。 ・「ここにいると心地良い」と思えるまち。 ・時代の流れの産業を導入すべき。今で言えば生活産業。</p>	<p>I社</p>	<p>「よりよい御堂筋を求めての提案」 ①アクセスについて 車両混雑の緩和（2本のうち1本のグリーンベルトを車道化、もしくは、車道を2階建てに） 赤バスの整備（1車線をバス専用路線として、南行き、北行きを同車線で走らせる） ②環境について 季節感の演出（銀杏並木の片方を桜に替える。）、近畿管内出先機関をもうけ行政サービスを向上、全天候型歩道の整備、歩行者天国にしてスタンプラリーなどのイベント開催、総合病院の誘致、歩道を前面禁煙化、託児所施設</p>
<p>B社</p>	<p>「誰にとっても魅力的で一日中活動できるまち」 ・大阪経済を担う風格あるビジネスの拠点に多様な機能を付加。 例えば、ショッピング、飲食、文化（ホール、劇場など） ・潤いのある生活環境（現在はゆっくり食事できる場所がない。） ・ナイトライフが近くでできるまち。朝から晩まで過ごせるまち。（現在は仕事が終われば、まちの機能が終わってしまう。） ・古いビルのリニューアルを進める。 ・都市景観については、高さ、壁面などもう少し緩和すべき。 ・今のまちなみは殺風景。 ・総合設計の活用。 ・緑と水の空間がある歩いても楽しいまち。 例えば、ポケットパーク、サンクンガーデン。</p>	<p>F社</p>	<p>「働く楽しさ、歩く楽しさ、憩う楽しさ 等」 そのために新しい機能の付加、現在ある機能の強化 ・ゆとり、アメニティ、賑わい・シンボル性、グレード ・通り（東西のみち）、後背地との関係 ・御堂筋＝大阪のメインストリート（大幹線道路）、沿道地区＝大阪のビジネスエリア（業務ということが切り離せない） ・現状は平日の昼のまち。それを平日の夜のまち、休日のまちにする？</p>	<p>J社</p>	<p>「働きたい、住みたい街として選ばれる国際都市に」 そのためには、人材の育成と産業の創出が重要。 ①御堂筋市民の育成 ・高付加価値型産業の育成：ベンチャー特区（何度でもチャレンジできる土壌づくり） ・都心住宅の整備（御堂筋の周辺部分に出てきている芽をつぶさない） ・通りを魅力的にする要素の拡大 ②「情報のポータルサイト」の整備 ・ブロードバンドネットワーク化、メディアコンテンツ企業の集積 ・関西のナンバーワン、オンリーワン企業を認知させ、投資を呼び込むマーケット機能を備えた「情報のポータルサイト」の整備 ③官民一体の推進組織の整備 ・参加者にインセンティブのある実効性の高い推進組織 ・計画的な取組と自然発生的な活動をサポート ・御堂筋シティブロデュース国際コンペ</p>
<p>C社</p>	<p>「ビジネス（仕事）を楽しむことのできるエリア」 ① 地域が一定の美的感覚の満足が得られる景観を有すること。 ② 商談も含めて語り合える場所・空間があること。 ③ 安らぎ憩える場所・空間があること。 ④ 知的な刺激が得られる機会が多くあること。 ⑤ グレードの高さが感じられること。 これらの具体的な実現がこの地域の誇りを強め、それが外部に伝わって「御堂筋のブランド」（差別化）が形成される。</p>	<p>G社</p>	<p>「住み良い関西をリードする御堂筋」 ①生活文化関連産業が集積する街 ②付加価値で売れる街 ③品位のある街 ④各界著名人がいる街 ⑤ホスピタリティのある街 ⑥ビジネスチャンスが生まれる街 企業にとって御堂筋の魅力 ・大阪市の中核 ・顧客企業が多い ・一流の企業が集積 ・交通の利便性が高い ・ステイタスが高い ・分かり易い 金融のまちであることはこれからも大事にしたい。 お金のあるところに産業は集まる。</p>	<p>K社</p>	<p>「新世代をリードする御堂筋」 ①権威を持った紳士だけでなく、若い人も集まる街 ②時代を先導する産業の誘導 ③新しいまちなみの良さを生み出す街 ④車にとって素晴らしい道から歩行者にとって素晴らしい道へ（側道を歩行者専用道路 or 赤バスのレーンに。） ⑤憩いの空間が必要（劇場、美術関連など） ⑥インテリア関係や美術商（御堂筋の裏側に集まっている。） ⑦水の都として中之島との連携</p>
<p>D社</p>	<p>「企業オーナーが御堂筋に進出したいくなる」 「1階等に店舗を出したいくなる」 「ワーカーが御堂筋で仕事をしたいくなる」 「学生が御堂筋企業に就職したいくなる」 ①テナント企業ワーカーが働きやすい環境 取引先企業・訪問先企業・金融機関がまわりに多い、官公庁が近い IT（情報受発信インフラ） 生活（喫茶、昼食、夕食、飲食、コンビニ、ビジネススーパー） 知識（本屋、図書館、ビジネススクール） 健康（診療所、病院、救急病院、カウンセリング、マッサージ） 安全（防災・防犯環境、交番、消防、照明） 憩い（公園） 文化（劇場、映画館、アートギャラリー、歴史顕彰オブジェ） ②訪問者（取引先など）の利便性 交通（駐車場）、宿泊（ホテル）、食事（料亭） あえて言えば賑わいには疑問。法人営業では、企業集積が望ましい。</p>	<p>H社</p>	<p>「関西を代表するビジネス街であり続ける御堂筋」 「御堂筋まちづくりネットワーク」などを通じて、企業やそこで働く人々自らが御堂筋の活性化やまちづくりについて積極的に参加し、御堂筋が時代とともに変化していくことは認めつつもその変化の方向性をきちんと見定めていく」 「御堂筋に立地する企業、そこで働く人々と大学などとの知的交流が容易な地区」 理由として、 ・やはり御堂筋は今後も関西経済を支える中心地区となってほしい。 ・「御堂筋まちづくりネットワーク」での取組が魅力ある都市づくりの手法のモデルケースとなってほしい。 実現に向けてのアイデア ・御堂筋から出て行った人々が戻り、新しい人々が御堂筋にやってくるような、御堂筋の活性化につながる「人が集まる拠点づくり」を行う。（例 中身的にも外見的にも御堂筋を象徴するビル） ・「御堂筋にしかないもの」をつくる。（例 御堂筋にしかない店を誘致する。一方で何でも揃っているまち） 「いろいろな時間の流れがある通り」 「時間的早さ」を求める部分も当然必要であるが、昼休みや仕事の合間、歩いている途中にホッとできる空間や時間の流れを作る。</p>		

御堂筋沿道企業の思い

バックグラウンドより

○歴史

- ・東西の通りから南北の筋への都市構造の転換。東西の通り沿いには特徴的なまち。
- ・豊富な歴史資産。歴史的に教育、文化の拠点。
- ・周辺の人口減少、特に淀屋橋から本町間の人口減少が著しい。
- ・沿道は小区画の間屋街から、戦後に大規模ビルの金融業の集積へと変化。

○周辺地域

- ・この地区のビジネスは、業種的にも、歴史的にも多様でパッチワーク的。
- ・それぞれの筋、通りごとに規模、性格の違った建物があり、地区全体として様々なスペースを提供できる要素を備えている。

○現状

- ・建築のピークは、淀屋橋～本町間では1960年代に集中。
- ・御堂筋まちなみ誘導や、建築美観誘導などの様々な取り決めがある。
- ・地価・賃料とも、下落が続いており、東京都心部に比べてもその傾向が顕著。

○新しい動き

- ・金融業界再編等により沿道建物1階利用形態は金融系から変化しつつある。
- ・高いステータスと地価下落という要因が新たな店舗、企業の進出を後押し。

○行政・財界からの期待

- ・関西のシンボルであり、現在の雰囲気、ステータスを維持、発展させるべき。
- ・淀屋橋～本町間はビジネスゾーンとして風格あるまちでありつづけて欲しい。
- ・人々が楽しめるにぎわい施設づくりなど、「人」を重視したまちづくりが必要。

○トレンド

- ・世の中のトレンドは多種多様かつ絶えず変化し続けるものであり、有効にトレンドを取り入れていく必要あり。
- ・トレンドの後追いではなく、逆にトレンドを形成していくしかけ作りも重要。

○競合地区との比較

- ・メインストリートとしてのイメージの良さと、集積度や交通利便性などの企業営業活動上の利便性が優れている。
- ・開発規模が小さく、新規大規模ビルやホテル等のアメニティ施設が乏しい。

○先進事例

- ・大手町・丸の内・有楽町地区再開発協議会では、再開発推進に向けた検討活動を行いながら、官民合意で「まちづくりガイドライン」を策定、実際の再開発プロジェクトの動きに繋がっている。
- ・長堀21世紀計画の会では、継続的な提言、要望活動を通じ、地元の意向をまちづくりに反映、街の活性化に向けた具体的な取り組みに着手している。

○世界のメインストリート

- ・沿道に魅力的な商業施設が集積、ショッピングストリートとして数多くの人々を引き付けている。
- ・沿道あるいは周辺に多くの歴史・文化的ストックと豊かな自然があり、訪れる人々にショッピング以外の楽しみも提供することによって、ストリートのアメニティを高めている。

御堂筋の将来像

御堂筋STYLE創生

～ビジネスストリートの未来を創る・発信する～

- 出会い・ビジネスチャンスのあるまち
- 活発な情報の受発信ができるまち
- さまざまな知的刺激のあるまち
- 憩える・楽しめるまち
- 付加価値の高いまち
- 利便性の高いまち
- 訪れたい・住みたいまち
- チャレンジし変化していくまち

留意すべきポイント

金融再編で代わる機能は何か？

- ・ビジネスセンターとは何か？金融が背骨であり、金融が集まっているまちにはステータスがあり、よってそこに多くの企業が集まってきた。(金融が抜けはじめている現状の中で)将来のビジネスセンターとは何かということを考えないといけない。
- ・存続している地権者としての金融機関にも「なるほど」と思ってもらえる将来像が必要。

どんな情報を発信すべきか

- ・新しいビジネススタイル、ワークスタイルを発信するまち
- ・動きがあること、そしてその動きを発信すること、話題提供が重要。
- ・ビジネスのセンターのあり方をこう変えていくということをアピールすべき。
- ・継続的にまちをプロモーションしていくことが重要。

いかに変わっていくか

- ・将来性を感じさせるイメージが重要。
- ・こう変わろうとしていることが分かる表現。プロセスを見せる。

御堂筋沿道と周辺エリアとの連携の視点

- ・回遊性のあるまち。線から面へ。周辺と一体となったまちのおもしろさが必要。

やっぱり「人」

- ・オフィスワーカーが主役のまち
- ・オシャレな人、遊び心を持った人、情報発信力のある人がどれくらい集まるかでまちの情報発信力は決まる。

「文化」の具現化

- ・歴史(時間軸)の多様性。歴史ある建築の活用→新しいものはさらに新しいものにとって代わられるが、古いものは古くならない。
- ・映画館、ホールなどの機能の付与。

多様性

- ・機能の多様性だけでなく、歴史(時間軸)の多様性にも着目すべき。

ゆとり

- ・「リードしていく」「頑張る」から「ゆとり」「快適性」へ。

斬新性

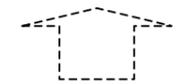
- ・既成概念にとらわれず、大胆に切り込むべき。

具体性・実現性

- ・一般論ではなく、沿道企業としてやりたいこと、具体的にイメージできるものを提示すべき。

将来像の役割

- 会員企業にとって、今後、会としてまちのプロモーション活動を展開していく上での指針
- 御堂筋活性化の動きを加速していくための「ツール」



出会い・ビジネスチャンスにあふれるまち

- 生活関連産業、ソフト産業など金融以外の時代をリードする様々な産業の集積もできている。
- 沿道ビル内の会議室や1階ショールームでは、こうした産業に係るデザイナーの会議やイベントが開催され、また、周辺にはビジネスフェアが開催される展示場もできている。
- そして様々な業種のワーカー、経営者、学識者、学生、旅行者などが、昼夜、平日休日を問わず集まっている。集まるための場がある。
- その交流の中からビジネスが芽生え、発展し、起業していく。そのための安価なオフィス、小規模ビルが御堂筋周辺には残されている。そして大企業が集積する御堂筋への進出を目指している。
- そのことが集積、交流、起業の好循環を生んでいる。



活発な情報の受発信ができるまち

- エリア内企業ネットワークが機能し、エリア内の各種情報受発信のしくみがあることが御堂筋の優位性となっている。それは御堂筋まちづくりネットワークが母体となって、沿道企業に加え、周辺の薬屋・問屋などの団体等が加わってできたポータルサイトである。
- このネットワークを活用した人気投票で御堂筋ブランド企画商品の商品化が図られるなど、御堂筋界隈の活性化の取組が展開されている。
- 大容量データ通信網、街角情報ステーション、アクセススポットなど、まちには情報受発信のサポート機能が豊富である。それによって、ここには関西一円の様々な情報が集まり、様々なビジネス、文化等の情報に触れることができる。



さまざまな知的刺激のあるまち

- 様々な業界で活躍するワーカー達が、街かどのカフェやレストランで語り合っている。そこでは最先端の情報、活動的なワーカーの姿に触れることができる。自分を磨くことができる。
- 様々な催しが開催される北御堂をはじめ、図書館、美術館、コンサートホールなどが身近にあり、文化的な様々な情報にも触れることができる。
- 人的ネットワークを拡げたいと思えば、会員制のサロン、様々な交流会などのしかけがある。
- 大学のサテライトキャンパスやビジネススクール等、スキルアップのための施設が充実している。
- エリア内には、企業間の人材交流のしくみができあがっている。



憩える・楽しめるまち

- 週に1度の昼休み2時間運動も定着し、カフェやレストラン、ポケットパークは賑わい、ミニコンサートや軽スポーツを楽しむ人も増えている。
- 歩道や公開空地にカフェテラスやキオスク、屋台を設置し、ベンチを置くことができるようになった効果は絶大である。整備された街区内の歩行者スペースも快適だ。季節感のある花や緑にあふれ、ビジネスだけでないゆったりとした時間をも味わえるまちになってきた。
- 御堂筋から一步奥へ入ると、そこには中低層のヒューマンスケールのまちなみが残っていることも、快適性の大きな要素となっている。
- 緩速車線の活用によるカフェをはじめ、大学の学園祭やスポーツイベントなど憩いや楽しみを提供する御堂筋のPRイベントも増加してきた。



付加価値の高いまち

- 質の高い建築物の集積等により、新たな「活力と風格」が形成されたと感じる。
- ビジネスセンターにふさわしい賑わいが生まれ、オン・オフ両面での活力に満ち溢れている。
- また昔ながらの風格も、近代建築や御堂筋のまちなみにより維持されている。
- 海外からの来客も増え、それが外資系企業の進出にもつながっている。
- 企業にとっては、御堂筋にオフィスを構えていること自体がステータスであり、良好な企業イメージを創出する大きな要因となっている。
- 不動産価値は上昇し、それによって建替えやリニューアルが進み、さらに価値が上昇するという好循環が生まれている。



利便性の高いまち

- 交通利便性の高い御堂筋であるが、船場地区内での移動は不便なところもあった。それがエリア内のループバスの導入により、さらに便利になった。
- またレンタサイクルもこの界隈のスピーディーな移動手段としてビジネスマンに好評で、事業としても成り立っているようだ。
- ビジネスの点では、オフィスサポート機能は充実しており、起業しやすい環境が整った。
- 社用で使える店や夕刻からバータイムとなるカフェの存在は夜の御堂筋の活性化に貢献している。
- ホテルやレストランも充実しており、遠方からの来客には、御堂筋周辺で1日中過ごしてもらえる。



訪れたい・住みたいまち

- 埋もれていた御堂筋周辺の豊富な歴史的・文化的資源が脚光を浴び出してから、御堂筋を訪れる人が増えた。
- ワーカーをターゲットに進出したカフェ、レストラン、ショップではあるが、まちを訪れる人たちにも人気があり、土日も賑わっている。
- そういった変化は、これまで居住には向かないと考えられていた御堂筋周辺に、「住みたいまち」のイメージを創出させている。
- コンビニ、カフェ、レストランなどが揃い、休日もオープンしている店が増えたことにより、御堂筋周辺に低層階は店舗・オフィス、高層階に住宅という複合ビルが増えた。またオフィスから住宅へのリニューアルも増えている。



チャレンジし変化していくまち

- 「御堂筋まちづくりネットワーク」が核になり、時代の変化に合わせたまちの歩むべき方向が示され、実践されている。まちには、ホテルなど従来なかった新たな機能が付加されてきた。
- ビジネスセンターの新しい姿は、御堂筋で生まれ、それが全国に広まっていった。
- 新しい試みはまちの各所でおこなわれ、まちにはそれを支える風土が醸成している。
- 最近、新業態のビジネスサポートショップがオープンしたが、そのことは即ポータルサイトで紹介され、ワーカーや企業が利用する。またそれは外部にも情報発信され、すでに各地に出店する話さえ聞こえてくる。

Member

(株)アクセス
(株)石原時計店
大阪ガス(株)
(株)大林組
関電産業(株)
銀泉(株)
京阪神不動産(株)
GECリアルティ(株)
(株)新日鉄都市開発大阪支店
(株)銭高組
学校法人相愛学園
大成建設(株)関西支店
(株)竹中工務店
長和ビルディング(株)大阪支店
東京海上火災保険(株)
東京建物(株)大阪支店
(株)東京三菱銀行
東芝不動産(株)
都市基盤整備公団関西支社
日本生命保険(相)
日本土地建物(株)関西支社
日本橋興業(株)
農林中央金庫大阪支店
(株)マメシン
ミズノ(株)
三井不動産(株)関西支社
明治生命保険(相)
モリト(株)
(株)UFJ銀行
(株)淀川製鋼所

Special Member

(社)関西経済連合会

(順不同・敬称略)



御堂筋まちづくりネットワーク <http://www.midosu.jibiz>

お問合せ先：事務局 〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-13 (株)竹中工務店内

TEL 06-6263-7541 E-Mail info@midosu.jibiz